

第三者意見

当意見は、本レポートおよび関連ウェブサイト (<http://www.yrc.co.jp/csr/>) の記載内容、および同社の原料・資材調達、人事、総務、CSRの各担当者へのヒアリングに基づいて執筆しています。

同社のCSRへの取り組みは、環境負荷の削減を中心に、着実にPDCA (マネジメント・サイクル) を進め始めていると言えます。

■ 高く評価すべき点

一 コーポレート・ガバナンスとCSR推進体制 (<http://www.yrc.co.jp/csr/outline/group.html>) について、2017年までの中期目標を定め、ISO26000の中核課題を参照した重要成果指標 (KPI) を設けて取り組みを進めていることを評価しつつ、今後は、創業100周年を迎える2017年以降の世界市場における自社のポジションを念頭に置いた体制の整備、特に、グローバルで多様な価値を経営の判断や実践に織り込むために、国内外の現場からのボトムアップによる目標や施策が促されることを、引き続き期待します。報告やコミュニケーションの体制についても、国内外のグループ会社の取り組みをさらに詳細に紹介するとともに、三重工場において生物多様性に関して始められたのと同様に、事業上の重要地域においてNPOなどと継続的な対話の機会を設け、ISO26000が求めるステークホルダー・エンゲージメントが促されることを期待します。

一 生物多様性の保全 (<http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/environment/biodiversity.html>) について、2010年度に実施された国内外計30拠点での事業所周辺予備調査を踏まえて、三重工場など国内7拠点で、従業員によるワークショップや地域住民への説明会、広域的な生物多様性・生態系保全活動が自律的に進められるなど、生態系と、そこに自社が与える正負両面の影響を正確に理解して取り組みを進めていること。今後は、海外の事業所にも着実に同様の取り組みが広がることを期待します。

一 「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクト (<http://www.yrc.co.jp/csr/mori/index.html>) について、開始からわずか6年間で、生物多様性の維持・改善に配慮した植樹を国内外で32万本以上行うとともに、その苗木の栽培も自社内で行い、2013年度は73%を社内で供給するとともに、国内では自治体や他社にも累計で16万1千本以上提供していること。特に、東日本大震災の被災地における「いのちを守る森の防潮堤」づくり率先して協力していること。森林生態系や緑地の維持・改善のための社会貢献プログラムとして、世界最高の水準にあると高く評価するとともに、今後は、「YOKOHAMA千年の杜プロジェクト」サイトが、同様の取り組みを進める他社の事例も網羅的に紹介するポータルサイトへと進化することも引き続き期待します。

■ 取り組みの進捗を評価しつつ、さらなる努力を求めたい点

一 品質保証の推進体制 (<http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/customer/index.html>) について、製品の企画・開発段階から関与するなど拡充されたことを評価しつつ、今後は、顧客に与える影響の最小化を経営指標に織り込むなど、さらに定量的かつ効果的な取り組みが進むことを期待します。

一 環境負荷の削減 (http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/environment/production_2.html) について、再生粉末ゴムの使用量が前年比で約16%増加するなど、製品による環境負荷削減が進んだこと、廃棄物発生量とGHG排出量について前年比で改善し中期目標を

IIHOE

人と組織と地球のための国際研究所

代表者

水谷 孝人

IIHOE

「地球上のすべての生命にとって、民主的で調和的な発展のために」を目的に1994年に設立されたNPO。主な活動は市民団体・社会事業家のマネジメント支援だが、大手企業のCSR支援も多く手がける。
<http://blog.canpan.info/iihoe/> (日本語のみ)



達成しつつあること、温室効果ガス (GHG) 排出量削減について長期目標を新たに定め、中国でエリア環境経営会議が開催されるなど海外での進展を評価しつつ、今後は、「生産量の変動に適應しうるエネルギー使用の非固定化」(エネルギーのジャストインタイム) 化など、課題と手法の可視化を徹底的に進め、部門間や海外拠点でも体制の共有が進むことを、引き続き強く期待します。

一 調達先におけるCSR (<http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/partner/partner1.html>) について、CSR勉強会を世界の主要地域で開催し、調達先による自主診断などに基づく表彰制度が設けられたことを評価するとともに、今後は調達先による取り組みの改善をさらに効果的に促すために、業界の世界的な動向を見据えて、より詳細な取り組み状況の把握と、事例の共有、課題解決に向けて交流する体制が整えられることを、引き続き強く期待します。

一 働き続けやすさの向上 (<http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/employee/employee4.html>) について、育児・介護のための休暇・休職・短時間勤務制度が拡充され、利用者も横浜ゴム(株)従業員の3.47%に達したことを評価しつつ、今後は、介護休業取得経験者の事例紹介などの勉強会をはじめとした「休みながら働き続けられる」環境の確立に強く期待します。また、メンタル面でのケアについても、全社員対象のストレス診断の実施を評価しつつ、今後は予防のために、仕事以外の困りごとにも相談できる窓口が設けられるなど、さらに効果的な対策が進むことを期待します。さらに、定年者の再雇用が進んでいることを評価しつつ、再雇用された方々が暮らす地域への参加・参画も促されることを期待します。

一 グローバル企業としての人的ポートフォリオの拡充について、海外グループ企業の主要マネジメント層職位の育成強化に着手したことを評価しつつ、今後も10年以上先の市場とポジショニングを見据えた長期的な目標と戦略に基づき、本社の次世代の経営層育成がグローバルに加速されることを強く期待します。

一 障害を持つ従業員の雇用 (<http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/employee/employee5.html>) について、法定雇用率が達成されたことを評価しつつ、今後は障害を持つ従業員の勤続年数をより長期化するための施策がさらに積極的に行われることに、引き続き期待します。

■ 一層の努力を求めたい点

一 従業員の安全 (<http://www.yrc.co.jp/csr/report2014/employee/employee2.html>) について、重大災害が発生し、その初期処置や報告にも問題があったことは極めて遺憾であり、今後は、過去災害カレンダーに基づくふりかえりのみならず、設備仕様に安全の改善・是正を織り込み、安全向上への取り組みそのものの実効性を高めるための評価と改善の進捗報告を求めます。

▶ 第三者意見をいただいて

これまでに当社が進めてきた取り組みについて一定の評価はいただきましたが、ご指摘をいただいた点につきましては、まだ当社の努力が不足しているものと真摯に受け止め、ステークホルダーの方々からの期待に応えるべく継続し改善を図ってまいります。

まずは、職場の安全は企業活動の基礎であり、安心して製造に取り組める環境整備に取り組んでまいります。その上で、持続的な事業活動を国内外で安定して行うため、拠

点地域の生物多様性保全調査を行うとともに、今後の高齢化社会における従業員のニーズに応じた介護制度、障がい者雇用の制度見直しを通して、働きやすく、能力を発揮できる職場環境の整備を行ってまいります。そのためにも、引き続きステークホルダーの方々との意見交換や協働を進めてまいります。

横浜ゴム株式会社 取締役常務執行役員 CSR本部長
森田 史夫

